

小学校における情報化推進リーダー支援システムの構築

～地域ネットワークとITCEの役割に焦点を当てて～

Development of WBT System For School Computing Leaders of Elementary School

中川 齊史

村川 雅弘

鳴門教育大学大学院

鳴門教育大学

Graduate School, Naruto University of Education

Naruto University of Education

<あらまし>

校内情報化推進リーダーの育成は、都道府県教委やJAPETを中心にカリキュラムが生まれ、養成のための研修が毎年行われている。そのカリキュラムは多様であるが、知識伝達にとどまらず、問題解決型の研修を採り入れているところが多い。加えて、数日間の日程の他に、受講生同士が年間を通してwebなどを利用して交流したり、次の課題提出までに各学校での実務を課しているようなスタイルも増えてきた。

おおむねこのような研修スタイルは情報化推進リーダー養成には適したスタイルであると思われるが、同じ都道府県内といえども各現場の状況は様々で、機器の整備状況や現場のサポート体制は各市町村により大きく異なるのが現状である。そのため、よりよい校内情報化推進リーダーを育てるためには、それらの地域の実情を加味した研修カリキュラムや育成プログラムが必要である。そこで、各地域の情報化の推進として位置づけられているITCE（教育情報化コーディネータ）が、メンターとなり各地域内の校内情報化推進リーダーを育てるための研修システムを構築し検証する。

<キーワード> 情報化推進リーダー 現職教育 OJT 訓練支援システム ITCE

1 問題の所在

図1は、教育の情報化に関する国の各種施策一覧を抜き出したものである。このように国を挙げて教育の情報化を推し進めているが、ハードやソフト面は、アウトソーシングや資金調達により解決できるが、教員研修（中央楕円）は、それ以外の要素を多く含む。

教育の情報化の普及・啓発には校内のリーダー（School Computing Leaders, 以下SCLと略す：英名称は筆者）が必要であるとの認識から、国は、都道府県レベルの指導者養成、都道府県は各校内でのSCLの養成のための研修プラン（主に短期集中型研修）を実行している。これらの研修カリキュラムは、より実践的な内容での知識、技能、問題解決力などが育成されるようなカリキュラムとなっており、一定の成果を上げて

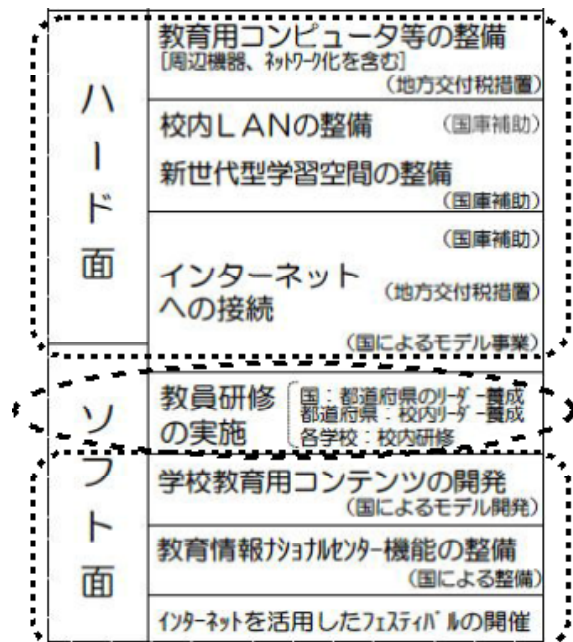


図1 学校教育の情報化推進計画(2000 文科省)

いる。

しかし、基本的には一斉研修である以上、

学校ごとに大きく異なる情報環境や様々な教師集団の中での振る舞いについては、対応しにくいのが現状である。実際にこれらの研修を受けた教師が必ずしも現場でリーダーとなり得ないケースが多いことからそれは言える。

2 研究の目的

そこで注目したのが、実際の現場において、SCLとして仕事をしながら問題解決する力を伸ばせるような研修スタイルの開発である。そのためのシステムを教員研修の視点から開発する。そしてこれらがシステムとして稼働するためには、メンター的な役割をもつことが必要となる。本研究では、地域のITCEがSCL支援システム上のメンターとして振る舞い、SCL育成を行うとともに、そこで得られた知見からITCEの新たな役割についても考察する。(図2)

3 研究の方法と経過

徳島県三好郡内の小学校で研究協力を申し出た情報主任10名に対し、支援システ

ム用アプリケーション『わいわいレコーダー for DKM』(15年度Eスクエアアドバンス事業にてJR四国コミュニケーションウェアにより開発されたツール)をインストールし、稼働。

そのほか、下記について実施中である。

- 各SCLの属性調査
- ITCEに対するアクションルール提示
- 支援システム上でのSCL同士のやりとりで共通課題と個別課題の協同的解決を行う

これらの状況からこのシステム運用を形成的に評価し、これからの研究を次のようにすすめることとする。

4 今後の予定

今後は、支援システムでやりとりされた内容の履歴から、ITCEとの関わりやSCL同士の関わりなどについて分析するとともに、SCLとしての能力がどのように育成されたのかなどについてインタビュー調査を行う。それらを元にさらにシステム改善とシステムの検証を行う。

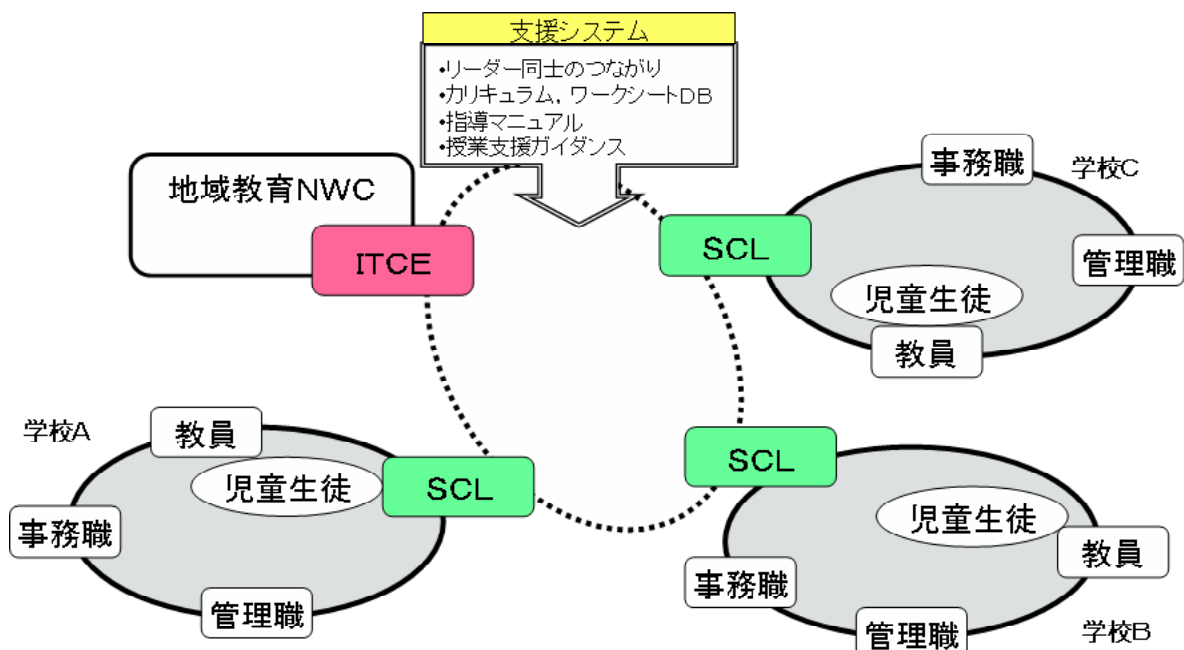


図2 地域教育ネットワークとITCEが支援する校内情報化推進リーダー支援モデル(中川 2004)